

## 一次評価一覧

## (1)温室効果ガス排出量エネルギー使用量

委員名	評価意見	評価点
松波 淳也		3
奥 真美	<p>・2022年度における温室効果ガスの削減には、下水処理場におけるバイオ発電による電気使用への切替えや清掃工場の建替えにともなう町田リサイクル文化センターにおける電気使用の終了といった状況の変化が大きく寄与している。今後こうした新たな大幅削減策を期待するのは難しいであろうことからすると、来年度以降も2030年目標に向けた着実な排出削減が実現できるか懸念されるところである。</p> <p>・2019年度からは随意契約分も含めて、排出係数実績値が環境省が示す代替値未満の複数事業者から見積もりを徴収するようルールを統一化したことは、低炭素電力の調達に資する取組みとして評価できる。</p> <p>一方で、調整後排出係数が契約時に用いた基礎排出係数を上回ってしまうケースがあり、想定よりも削減効果が得られないという状況がある。この点は、市が予見しコントロールできる余地はないものの、結果的に代替値以上となった事業者についてはその要因を把握しておくとともに、同一事業者でそうした状況が続くような場合で要因如何によっては次期契約対象から除外するとか、入札において劣後させるといった、何らかの対応策も考えられるのではないかと。</p>	3
齊藤 崇		
戸村 正美	<p>前年比でも温室効果ガス排出量は、17.3%削減されており、2022年度から、町田バイオエネルギーセンターで発電したCO2排出係数の低い電力を利用し、CO2総排出量も削減されまた、庁舎でも電力使用量の削減やCO2排出係数の低い電力を利用し削減を図られました。小・中学校では電力使用量が増加したもののCO2排出係数の低い電力を利用し排出量を削減されました。引き続き目標達成に向けた取組みを継続していただきたい。</p>	4
屋 昌宏	<p>2030年に向け高い削減目標を設定したことに加え、CO2排出係数の低い電源導入を推進していることは評価できる。</p>	4
齋藤 之良		3
土肥 興治	<p>・バイオエネルギーセンターの発酵発電・熱回収の取り組みは、チャレンジングであり行政の強みを生かした活動である。特に町田という決して極端に恵まれていない市ではないにもかかわらず市の単位で行えたのは非常に大変だったと思うが素晴らしいこと。他活動(民間鋼板など)も含めて町田市の誇れる活動であると感じた。</p> <p>今後、これを「立てっぱなし」にするのではなく、後進に生かしてほしい。「いくらでどれだけの燃料になったか(収支)」「どう生かしていくか、反省点はどこか」を上げて今後に生かして欲しい。(センター自体が計画に対するすでに努力の結果である認識なので、査定にマイナス影響はなし)</p> <p>(私が思ったのは、今になって言えば、発電に内燃機関を使うのがお買い得に思えないのと、基本的に施設は御題になったほうが発電効率は上がる傾向にある。(データの分離が煩雑にはなるが)もう少し頑張っ隣にあるガスタービン発電や熱回収システムと連携できなかったのが非常に残念。また、水力発電だが、これも冷却システムを整理すればもう少しおおきなものになったのではないかと感じていて、大組織の苦手なところが露呈している感じがします。また、遠隔操作機能はいらないと思います。セキュリティリスクがあるだけ。)</p> <p>・国と違い、自治体は収入がなければ行動できない。高くてもよいから低排出の電気を買うのだ、では困るので、今後その辺のバランスをどうとっているかを気にし始めてください。→いままでの、「何を」に追加して、いくらで買ったかを明瞭に。</p> <p>総評: 3の理由 改善シロはあるものの「決まったことはできている」と感じたので3。 ・低エミッションな電気を買う、に対して「バイオエネルギーセンター&amp;熱回収設備」以外に市ができないことはないか? このままでは企業に度量を押し付けているだけになってしまう。</p>	3
齋藤 葉帆		
山本 麻衣子		4

平均点	3.4
最高点	4
最低点	3

システム運用状況に対する評価  
(2)資源(廃棄物)

委員名	評価意見	評価点
松波 淳也		5
奥 真美	<p>○確かに第5次環境配慮行動計画では2025年までに市庁舎(本庁舎)から排出される事業系ごみを2019年度比で10%削減することを目標として掲げているが、同時に取組内容として「市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減」を記載している。さらに、同行動計画の目標値の根拠を提供している第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランでは、「公共施設から排出される事業系ごみの削減」として10%の削減目標値を掲げており、これは市庁舎(本庁舎)に限定した目標値ではないものと考えられる。そうすると、今回の町田市環境EMSにおいて市庁舎から出る事業系ごみだけを対象として把握するだけで良いのか疑問が湧いてくる。従来から把握してきた市庁舎以外の施設からの排出分も含めた廃棄物量は、例えば2021年度では事業系と産廃との合計で2,619トンにも上っていたが、市庁舎の事業系のみ限定すると2021年度は144.6トンとなり、市施設から出る廃棄物量全体のわずか5%強の数値しか把握しないことになってしまう。計画やアクションプランの目標値に向けた状況は把握するにしても、せめて参考値として市施設全体の廃棄物量とその内訳、再利用率をこれまでと同様にフォローしていく必要があるのではないか。昨年度指摘した「その他一廃」や「その他産廃」のより詳細な組成分析とそれを踏まえたさらなる再利用率向上に向けた検にもつながらないおそれがある。</p> <p>○2022年度という早い時期に10%削減の目標値が達成できたことは大いに評価される一方で、この数値で固定してしまうことの妥当性やさらなる削減可能性についても今後数年の状況を踏まえて検討していく必要があるのではないか。</p>	4
齊藤 崇		
戸村 正美	<p>2019年度比13.7%削減と大きな成果を上げるにあたり、業務においては文書の起案・決済の電子化、ビジネスチャットの活用、タブレットを使用した文書の電子共有の普及で紙購入量を削減し、事業系のごみはリサイクルを行うなど、ごみを出さない取組みは評価できます。引き続き第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランでの2025年度までに10%削減の目標達成に向けて更なる削減努力をお願いいたします。</p>	5
屋 昌宏		3
斎藤 之良		4
土肥 興治		5
齋藤 栞帆		
山本 麻衣子		5

平均点 4.4

最高点 5

最低点 3

システム運用状況に対する評価  
 (3)グリーン購入達成率

委員名	評価意見	評価点
松波 淳也		2
奥 真美		2
斉藤 崇		
戸村 正美	2022年度は、小・中学校におけるグリーン購入達成率が前年度比1.8%の向上は評価できますが、非適合品購入の「その他」(18.0%)のうち、「意識しないで購入した」という理由でグリーン購入に至らなかった記載があります。購買を担当する方の意識高揚に繋がる研修や意識調査等、属人的な要因を最小化するための取組みが必要と考えます。	2
屋 昌宏		3
齋藤 之良	実質的にグリーン購入調達率は「小・中学校」の割合が支配的なため、個別品目調査とその購買理由、代替の可否など集中的な調査検討と改善方法の情報共有を検討してもらいたい。	2
土肥 興治	総評: 自己評点2と同じの理由 お話にあった通り、取り組みに差があり、これの実態が認識しきれていない(やっている途中)と認識した	2
齋藤 栞帆		
山本 麻衣子	グリーン購入専用カタログの導入予定などとてもよい案だと思う。 アプリなどにより簡素化される事で、グリーン購入定着に期待する。	3

平均点 2.3

最高点 3

最低点 2

システム運用状況に対する評価  
 (4)エコオフィス活動(職員共通)

委員名	評価意見	評価点
松波 淳也		3
奥 真美		4
斉藤 崇		
戸村 正美	各職場のエコオフィスサポーターが評価されていると認識しますが、グリーン購入項目がに低いようです。目標達成に向けた取組みにもあるようにエコオフィスサポーターの変更時に大きな差異が生じないような取組みと節電やグリーン購入における意識高揚の取組みを進めていただきたいと思います。	4
屋 昌宏		4
斎藤 之良		4
土肥 興治	総評: 自己評価3と同じ理由 評価は同じ。取組み例を見る限り、「できるだけ」など内容があいまいなところが低い点数の一因ではないかと感じた	3
齋藤 葉帆		
山本 麻衣子	これまでも高い達成率だが、さらに意識を高めて取り組んでいると思う。 チェックシートを担当する職員の業務の引き継ぎをしっかりと行い、認識の差などなくしてほしい。	4

平均点 3.7

最高点 4

最低点 3

システム運用状況に対する評価  
 (5)エコオフィス活動(施設担当部署)

委員名	評価意見	評価点
松波 淳也		5
奥 真美		5
齊藤 崇		
戸村 正美	昼休み時の照明消灯の実施については継続的な啓蒙活動が大切だと考えます。この際、消灯時に足元が見えにくくなって事故に繋がるリスクもあるため、通路の整理整頓にも注力していくべきだと考えます。	5
屋 昌宏		4
齋藤 之良	昼休み時の照明消灯の実施で改善したとはいえ低すぎるのが気になる。昼休みの消灯は数十年前からの省エネ対策で常識化している筈。特別な理由があれば提示してほしい。	4
土肥 興治	総評: 自己評価から1ポイント落とした理由 スコアだけならば5. ただし、足を引っ張っている項目があり、それが昨年と同じであったため、-1とした。	4
齋藤 葉帆		
山本 麻衣子		5

平均点 4.6

最高点 5

最低点 4

システム運用状況に対する評価

(6)研修の実施、環境法令の遵守、内部環境監査、情報公開

委員名	評価意見	評価点
松波 淳也		4
奥 真美		2
齊藤 崇		
戸村 正美	研修の実施については、それぞれの役割ごとに動画視聴を取り入れ昨年度より高い出席率になったこと、またeラーニング研修実施率の100%は大変評価できます。継続した取組をお願いいたします。環境法令においては行政として遵守することは必須だと考えます。チェックリスト等の活用により見落としの防止や、環境法令遵守の知識向上を更に高めていただきたいと思います。	4
屋 昌宏		3
齋藤 之良	2023年度中には全て適合するよう改善予定を確実に実施してください。	4
土肥 興治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違法状態の解消の計画立案ができたのは評価に値するが、申し訳ないがだからと言っていい点数がつけられない・・・</li> <li>・ただ、Eラーニングは就労者に対して100%が基本であると前年指摘したが、これについては改善されているようすばらしい。</li> </ul>	2
齋藤 葉帆		
山本 麻衣子	2021年度24件、2022年度16件、となかなか不適合ゼロには厳しい。 2023年度中にはゼロとなる見込みのようだが、厳しい対策を徹底してほしい。	3

平均点 3.1

最高点 4

最低点 2